

笑っている箱

王 翠 翠
WANG CUI CUI

私たち6人が日本に来て、もう七ヶ月経ちました。仕事場である工場は島根の田舎にあり、あまり賑やかではありませんが、風景はとても美しいです。人も親切です。またここには私の好きな物があります。それは「笑っている箱」です。

工場へきたばかりの頃、会社の女性がある八百屋に連れて行ってくれました。八百屋だという場所に着いて、辺りを見回しても、そこには木でできた小さな小屋があるばかりです。ドアも無く、店員は誰もいませんでした。誰もいない店頭で、野菜が並んでいました。私はそれを見て、大変驚きました。「店員はいないのですか？」と女性に聞くと、女性は笑顔で「この店に店員はいませんよ。皆自分がほしい野菜を取って、お金をこの中にいれるのです」と言って、壁にかかっている小さな箱を指差しました。その箱は鉄で出来ていて、錆がいっぱいついていました。私たちはまた驚きました。「この小さな箱ですか？」私は不思議でなりませんでした。しかし女性は「そうですよ、皆誰でも自発的にお金をこの中へ入れます」と言いました。私はもう一度その箱を見て、その錆だらけの古い小さな箱がまるで笑っているように感じまし

た。この箱は、人間のお互いの信頼関係の証です。この店の主も、この箱も、みんなを信じています。女性は最後に「あなた達もしっかりルールを守ってね」と言いました。私たちは大きな声で「はい！」と返事をしました。

異国で、外国人として、生活をしている私たちを皆、信頼してくれます。とても幸せな事だと思います。だからこそ、私たちはこの信頼感を大事にして、そして自主的にルールを守らなければならないと決心しました。

その時から、私たちはこの店員さんのいない店へよく行くようになりました。100円の野菜を買って、お金を箱の中に入れる時、とてもきれいな音がします。その音を聞くと箱が笑ったと思います。

七ヶ月の間、この店の野菜とお金が無くなったという話を聞いたことがありません。この箱は変わらず安全に笑っています。

私たちはこの箱が大好きです。この箱がくれる信頼感が大好きです。この箱から繋がっていく地域の人々との信頼と笑顔を守る為、私はルールを守ります。この箱と一緒に笑っています。